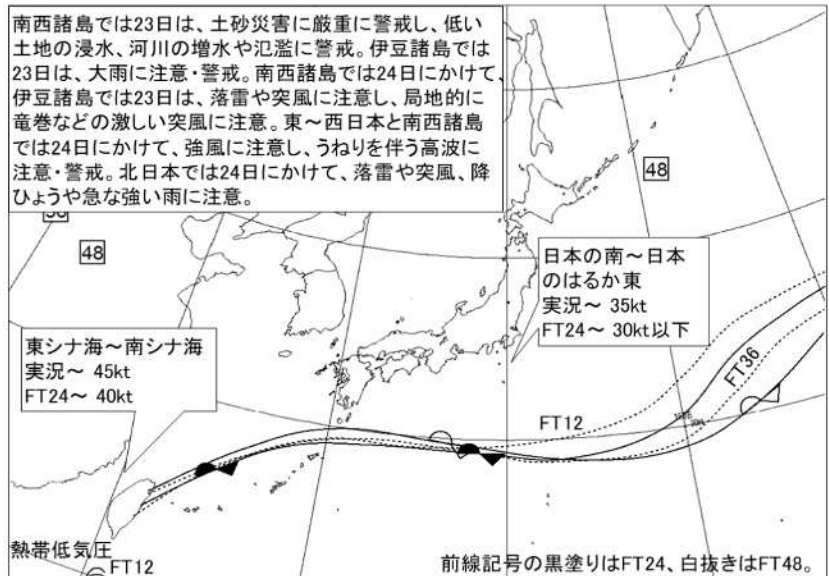


1. 実況上の着目点

- ① 前線が台湾付近から種子島・屋久島付近と伊豆諸島の南を通り日本のはるか東へのびて停滞している。熱帯低気圧が先島諸島の南を南南西進。九州南方海上で非常に激しい雨を解析し、発雷を多数検知。大陸から日本付近に張り出す高気圧と前線との間で気圧の傾きが急となり、東～西日本太平洋側を中心に13m/s前後の風を観測、しけの所がある。
- ② 大陸の高気圧が張り出して下層寒気が南下し、日本海北部では寒気移流に伴う筋状の雲が見られ、北日本日本海側では1時間5mm前後の雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、南西諸島付近では24日にかけてほとんど停滞するが、本州の南の海上では次第に南下する。1項①の熱帯低気圧は、23日にかけてバシー海峡付近を通り南シナ海へ進む。前線や熱帯低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。南西諸島では23日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。伊豆諸島では23日は、大雨に注意・警戒。南西諸島では24日にかけて、伊豆諸島では23日は、落雷や突風に注意し、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、大陸から日本付近に張り出す高気圧と前線との間で気圧の傾きが急となり、吹送距離・吹続時間の長い東系の強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなり、しける所がある。東～西日本と南西諸島では24日にかけて、強風に注意し、うねりを伴う高波に注意・警戒。
- ② 500hPa 5580m付近で-27℃以下の寒気を伴うトラフに対応する地上の気圧の谷が、24日に北日本を通過する。北日本では24日にかけて、落雷や突風、降ひょうや急な強い雨に注意し、標高の高い山地を中心に降雪に留意。
- ③ 25日は、2項①の前線は次第に衰弱する。一方、本州付近では500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した気圧の谷がのびて、26日頃にかけて本州の南岸を東北東へ進み、前線を伴う低気圧に発達し、三陸沖へ進む。気圧の谷に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る可能性がある。東～西日本と南西諸島では25日は、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間): 九州南部120mm。② 波浪(明日まで): 伊豆諸島・四国・九州南部・沖縄5、近畿・奄美4、関東・東海・九州北部3m。

- ③ 高潮(明日まで): 大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。